

企業ニュース レーザーテック

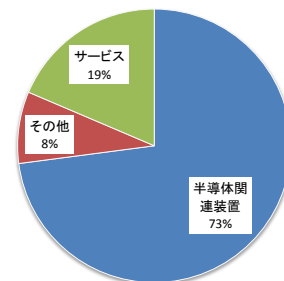
(東証1部 : 6920) <https://www.lasertec.co.jp/>

作成者: 兵藤三郎

半導体フォトマスク検査装置メーカー

◇18.6期売上高構成比

1960年に東京ITV研究所として創業、X線テレビの開発を行う。1962年、日本自動制御に組織変更した。1986年、前年に開発したレーザー顕微鏡や光応用技術を前面に押し出し、事業領域を拡大させていく意思を込め、現社名に変更した。18年6月末現在の半導体関連装置の受注残高は345億円、前期比193億円増。受注残には2017年9月に受注した半導体関連新製品約160億円分(売上計上は20.6期以降の予定)を含む。同新製品は、2018年11月27日に発表したマスクブランクス欠陥検査/レビュー装置と推察される。設計ルール5nm世代以降に対応した製品で当面はパイロットライン向けだが、半導体業界ではEUVL(極端紫外線露光)の開発熱も高まっている模様で、量産工程移行に伴う拡販が期待できよう。業績貢献は20.6期以降の見込みだが、今後開発費先行期間も一巡し、拡販により当社の業績をけん引するフェーズに移行しよう。



(出所) レーザーテック資料より
CAM作成

過去最高更新中、受注残高も高水準

19.6期・第2四半期累計(7-12月)業績は売上高が160億円、前年同期比53%増、営業利益が45億円、同37%増の予想。2018年12月27日に業績予想は上方修正されており、ほぼ予想値での着地と考えられよう。第3四半期(1-3月)での販売を見込んでいた一部製品が前倒しとなった模様で、売上高で17億円、営業利益で12億円の上方修正。なお、決算発表は2月4日を予定。

19.6期の会社計画は売上高が280億円、前期比32%増、営業利益が65億円、同14%増。引き続き積極的に研究開発費を投下、人員の増強も図るため経費は増加するものの、拡販による粗利増加で吸収し増益を達成させ、売上高、営業利益、当期純利益の過去最高を更新する見込み。20.6期以降には大型受注の業績貢献が期待される。研究開発費は引き続き高水準だが、新製品販売により19.6期が当面のピークとなろう。受注もさらなる増加が期待できる環境で、量産に向け設備投資も拡大させており、拡販による継続的な業績伸長が見込めよう。

[株価動向・投資判断]

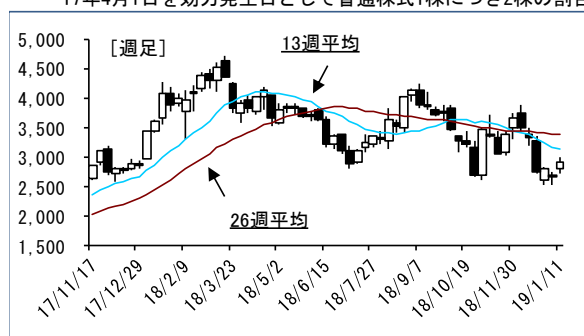
不透明感強まる半導体製造装置関連銘柄の中で、中期的な成長期待が高い銘柄として注目したい。EUVL開発熱は依然高く、開発費や生産能力などの課題も解消方向にありよう。

<6920 レーザーテック 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	円	円
17.6	17,278 (-)	4,901 (-)	4,964 (-)	3,534 (-)	78.4	28.00
18.6	21,252 (23)	5,685 (16)	5,706 (15)	4,366 (24)	96.8	34.00
19.6 予	28,000 (32)	6,500 (14)	6,500 (14)	5,000 (15)	110.9	39.00

(注) 会計方針の変更に伴い会社側が17.6期の数値を遡及修正したため伸び率は非算出、17年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を実施



[主要株価指標] (売買単位: 100株)

株価(2019/1/11)	2,916 円
昨年来高値(高値日)	4,715 円(18/3/12)
同 安値(安値日)	2,523 円(19/1/4)
予想PER(19.6予)	26.3 倍
1株株主資本(PBR算出用)	596.9 円
PBR	4.89 倍
予想配当利回り	1.34 %
(1株当たり配当金年39.00円)	
ROE(18.6)	17.0 %
発行済み株式数	4,714 万株